

日本の支援でダーバンの脆弱な子ども達のための施設を改善

2024年5月23日、牛尾滋駐南アフリカ共和国特命全権大使は、日本大使館が草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて実施した、ダーバン児童若者ケア・センター居住棟改修計画の引渡し式に出席しました。同式典には、クワズールー・ナタール州政府社会開発省関係者やダーバン児童若者ケア・センター理事会関係者等が出席しました。

ダーバン児童若者ケア・センターは1904年に設立した非営利団体であり、脆弱な立場にある子どもたちの保護施設を運営しています。2022年、日本大使館は同団体から老朽化著しい居住棟2棟を改修する修繕計画の申請を受け、草の根人間の安全保障無償資金協力案件として協力してきました。引渡し式において、牛尾大使は、マンディ・グローブラー所長に対し、同センターが入所する子どもたちが安心して生活ができる安全な環境を提供し、子どもたちの夢と未来を懸命に守っていることに敬意と感謝の念を表しました。また、デズモンド・ツツ司教の言葉を引用し、牛尾大使は「子どもの顔を見るとき、私たちは未来を思い浮かべ、彼らが何になるのか、何を成し遂げるのか、彼らの夢を思い浮かべる」と述べました。

経済・社会的格差の是正は、日本政府が南アフリカ共和国に対する開発協力方針の優先分野のひとつであり、日本大使館は現在までに南アフリカ共和国全土で草の根・人間の安全保障無償資金協力による支援を600件以上実施してきました。

